

ふせごう交通事故や事件 ～ワーストレベルから抜け出そう～

令和元年11月実践
授業者 福田 修



1 単元名 ふせごう交通事故や事件 ～ワーストレベルから抜け出そう～

2 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
交通事故や事件を減らすために, 佐賀県, 佐賀市, 佐賀県警が行っている対策を調べ, 地域の安全を守る働きについて理解すること。	より効果的な対策にするためにどうすればよいか, 複数の立場から考えたり, 現在の対策と比較・関連付けしたりしながら選択・判断すること。	交通事故を減らしたいという思いをもち, 地域の人々の生命や安全な暮らしを守るためにどうすればよいか自分事として考えること。

3 単元の構想

佐賀県は, 人口10万人当たりの交通事故発生件数が平成24年度以降5年連続全国ワースト1となっている。特に佐賀市では, 平成28年中に県全体の約35%を占める交通事故が発生している。このような現状を踏まえ, 佐賀県, 佐賀市, 佐賀県警その他の様々な関係機関が連携して交通事故を減らすための対策を行っている。その結果, ワースト1から抜け出すことはできたが, 依然として交通事故件数が多い状態が続いており, 佐賀県や佐賀市にとって解決すべき課題の一つとなっている。そこで, 交通事故の原因や, 現在の対策, 関係機関の連携などについて知り, 交通事故を減らすためにどうすればよいか考えることは, 地域の人々の生命や安全な暮らしを守るための社会のあり方を構想するうえで意義がある。本学級の児童は, 「わたしたちのくらしとごみ」の単元において, 佐賀市のごみ処理費用が年間33億円かかっているという事実から, 「将来の佐賀市はどうなるのか」という危機感を強くもった。その後の一連の学習の過程において, 自分の生活をふり返ったり, 家族と話し合ったり, ごみ減量に向けて何を優先すべきかを考えたりするなど, 事実から社会的問題を見だし, それを自分事としてとらえて学習に臨むことができるようになってきている。そこで, 本単元の「つかむ」段階では, まず, 佐賀県の交通事故についての現状を知り, 疑問や気付きを話し合うことで何が問題なのかを明らかにする。その上でパフォーマンス課題を設定し, 学習の見通しを立てていく。「調べる」段階では, 交通事故の原因や, 交通事故対策について, 資料の読み取りや家族への聞き取りなどを行い情報を集める。「高める」段階では, 集めた情報を整理することで, 交通事故対策には制度面, 施設・設備面, 自動車の装備面という視点を見だし, 視点ごとにグループを作り交通事故を減らすための対策を考えていく。その上で, 佐賀県庁, 佐賀県警, 自動車ディーラーの方をLP(ラーニングパートナー)として招き, 考えた対策について提案する。本時では, 佐賀県警の方に来ていただき, 提案する児童とLPの議論にフロアの児童も随時参加しながら, 自分たちの対策をより効果的なものにしていく。このように, 複数のLPと学び合うことで多角的に考え, 学習を広げていく。「広める」段階では, 議論の内容をもとに新聞を作成する。作成後はLPの方に届け, 講評をもらうことで, 学習したことの意義を考えていく。

4 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

地域の安全を守る働きについて, 佐賀県の交通事故の現状や, 交通事故対策などに着目して調べる活動を通して, 警察を中心とした関係機関が連携して活動していることを理解し, 交通事故を減らすためのより効果的な対策を考えることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

ア 佐賀県, 佐賀市, 佐賀県警では交通事故や事件を減らすために関係機関が連携して様々な対策を行っていることを理解し, 自分の考えた対策を新聞にまとめている。

【知識・技能】

イ 複数の立場から考えたり, 現在の対策と比較・関連付けたりしながら, より効果的な対策にするにはどうすればよいかを考えている。 【思考・判断・表現】

ウ 交通事故を減らしたいという思いをもち, 地域の人々の生命や安全な暮らしを守るために, より効果的な対策を考えて提案しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の計画（全12時間）

- ・交通事故の現状を知る（1時間）
- ・交通事故の原因や、対策とその現状を調べる（3時間）
- ・交通事故を減らすための対策を考える（2時間）
- ・LPとの議論を通して練り上げる（3時間）
- ・自分たちの提案のまとめをする（1時間）
- ・事件を防ぐ働きについて知る（2時間）

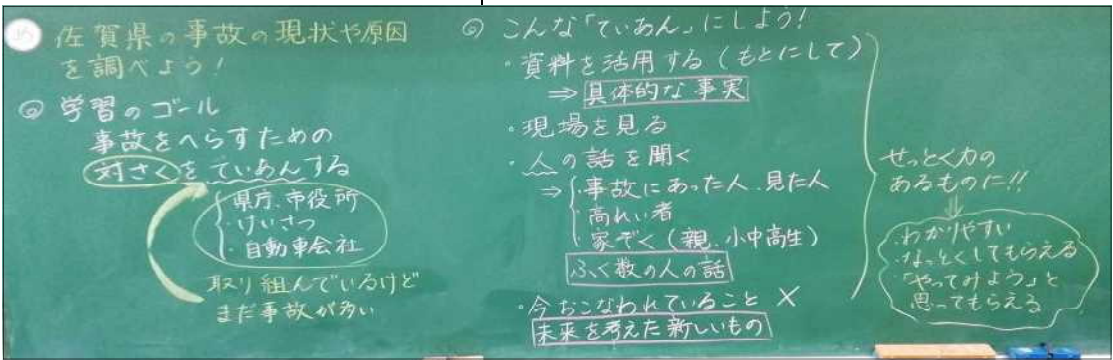
6 本時までの学習の概要

段階	時	主な学習活動（○） 児童の様子等（※）	教師の働きかけ（○）										
つかむ	1	<p>○佐賀県の人身事故発生件数を見て、気付いたことや疑問に思ったことを書く。</p>  <p>【図1 児童の気づきや疑問】</p> <p>※人身事故発生件数の多さと、5年連続全国ワースト1位という現状に驚き、「どうにかしなければ」と自分事の問題として課題に向かおうとする意欲が高まった。</p> <p>○気付いたことや疑問に思ったことをつなぎ、イメージマップを作る。</p> <p>○イメージマップを見て学習の見通しを持つ。</p>  <p>○パフォーマンス課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>県内の事故の原因や現状を調べ、交通事故をなくす対策を県庁・警察・自動車会社の人に提案しよう。</p> </div> <p>※ほとんどの児童が人身事故を減らさなければいけないと感じたり、5年連続ワースト1位であることへの危機感を募らせたりしていることが、ふり返り（図2）から読み取れる。つまり、今まで意識していなかった「交通事故に関する社会的問題」を身近な問題としてとらえ、自分事として考えようとし始めていると言える。</p>	<p>○社会的問題に出会わせるために、佐賀県の人身事故であることは伏せて、年ごとの発生件数のみを提示した。</p> <table border="1" data-bbox="798 616 1117 840"> <tr><td>2012（平成24年）</td><td>…9090件</td></tr> <tr><td>2013（平成25年）</td><td>…9364件</td></tr> <tr><td>2014（平成26年）</td><td>…8879件</td></tr> <tr><td>2015（平成27年）</td><td>…8561件</td></tr> <tr><td>2016（平成28年）</td><td>…7783件</td></tr> </table> <p>児童が数字の意味を考え始めたところで、全国1位であることを伝えた。ただし、ワースト1位であることを付け加え、児童がざわついたところで気づきや疑問はないか尋ねた。</p> <p>○児童の思いをもとに学習計画を立てるために、ノートに記述したことや、友達の意見を聞いて思い付いたことからイメージマップを作った。また、類似した内容をつなげて見出しをつけることで、学習の見通しがもてるようにした。</p> <p>○自分事として問題解決に取り組ませるために、どのような順番で調べたり考えたりするか、単元のゴールはどうするかを話し合いながらパフォーマンス課題を設定した。</p>  <p>【図2 児童のふり返り】</p>	2012（平成24年）	…9090件	2013（平成25年）	…9364件	2014（平成26年）	…8879件	2015（平成27年）	…8561件	2016（平成28年）	…7783件
2012（平成24年）	…9090件												
2013（平成25年）	…9364件												
2014（平成26年）	…8879件												
2015（平成27年）	…8561件												
2016（平成28年）	…7783件												

調
べ
る

2 ○調べ学習を進めていくために、学習のゴールや、提案内容の確認をする。

○学習の目的や方向性を明確にするために、「誰に」「どのような」提案をするのかということや、「そのために何が必要か」ということについて確認した。

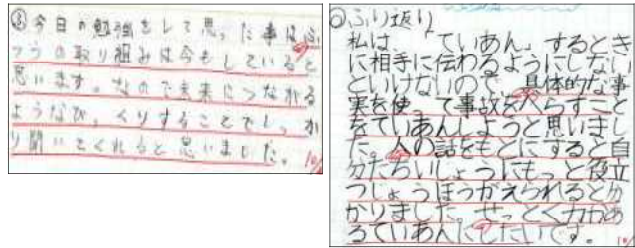


【写真2 本単元のゴールと提案する際に必要な事柄】

※ループリック表としての提示ではないが、提案する際に必要になることについて考えることができていた。また、それらを網羅することで、より説得力のある提案になることも理解することができていた。

※本時の学習を通して、今後の学習に対する見通しをもつことができたことが、ふり返り(図3)から読み取れる。

○児童の意欲を高めていくために、この時点で「警察」「県庁」「自動車会社」の方が来て話を聞いてくださることを伝えた。



【図3 児童のふり返り】

調
べ
る

3 ○交通事故に関する統計資料(図4)をもとに、事故の現状について調べる

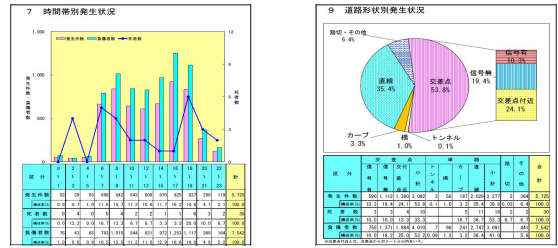


【写真3 資料の読み取りを行っている児童】

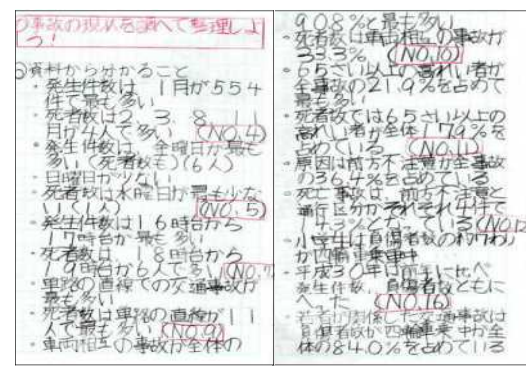
※「事故が多いのはいつか」「事故が多い場所はどこか」「どの年齢の事故が多いか」「一日の事故の件数」などについて、熱心に資料の読み取りを行うなど、主体的に取り組むことができていた(図5)。

※複数の資料から分かることを関連付けて、より詳しく事故の現状を捉えようとする姿や、資料から読み取ったことを友達と確認する姿が見られた。そのことがさらに詳しい読み取りにつながっていた。

○1時目に挙げられた疑問に対する答えを見つけられるように、県警本部のHP上にある統計資料を配布し、交通事故の現状について、資料から分かることは何か尋ねた。

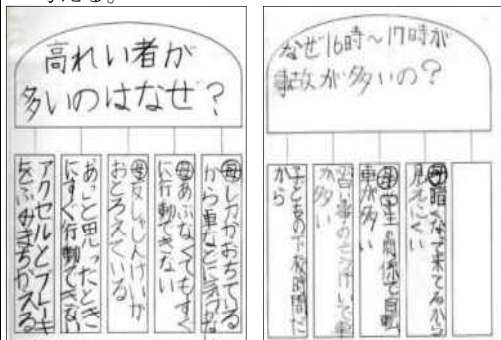


【図4 交通事故発生状況(平成30年 佐賀県警察本部)】



【図5 資料から分かること(児童のノート記述)】

調 4 ○前時で調べた現状について、事故の原因を
考える。



【図6 事故の原因（クラゲチャート記述）】



【写真4 事故の原因を考えている児童】

※予想をもとにした対話が自然と生まれ、互いの考えを比較する姿が見られた。

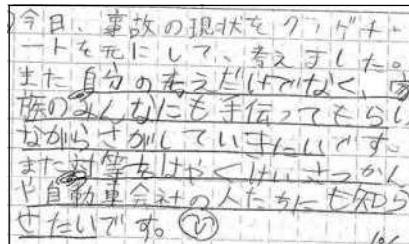
※クラゲチャートに表す過程、家族など他の人にも意見を聞いてみたいと考えたことが、ふり返り（図7）から読み取れる。

※家族に聞いたことで考えが広がったとともに、「事故に遭った人に聞いてみたい」と、さらに多角的に考えようとする姿が、ふり返り（図8）から読み取れる。

○事故の現状から原因を考え、その関係が一目で分かるようにするにはどうしたらよいか尋ねた。児童から「思考ツールの時間に使ったクラゲチャートを使うとよいのでは」という答えが返ってきたので、図6のクラゲチャートを用意し、現状と原因の関連を意識できるようにした。

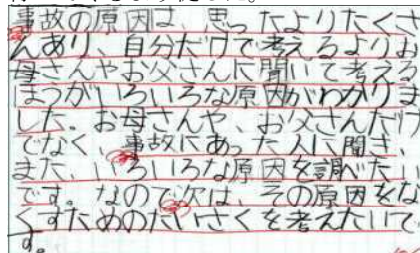
○枠をすべて埋める必要はなく、思いつく所から書いていくことを伝え、できるだけ多くの事実に関して原因を考えるように促した。

○資料から読み取ったこと、ニュース等で見聞きしたこと、自分の経験などから事故の原因を予想するよう促した。



【図7 児童のふり返り】

○児童のふり返りを受け、複数の立場から事故の原因を考えさせるために、家庭学習において家族等からの聞き取りを行ってくるよう促した。



【図8 家庭学習後の児童のふり返り】

調 5 ○交通事故を減らすための対策を考える。



【図9 事故を減らす対策（クラゲチャート記述）】

※「お金がかかりすぎるのでは」「実現するのは難しいのでは」など、社会的事象の見方を働かせながら対策を考える姿が見られた。

○対策を考えるために、前時で作成したクラゲチャートを使って、交通事故の現状と原因、対策のつながりが見えるようにした。

○自分の考えの理由を明らかにするために、配付した資料や教科書、家族への聞き取りなどをもとに対策を考えるように促した。

○対策を具体的に考えていくために、児童の希望により「警察」「県庁」「自動車会社」の3グループに分けた。



【写真5 事故を減らす対策を考えている児童】

※対策の内容と、提案する相手が決まったことで、今後の学習に対する意欲が高まったことが、ふり返り(図10)から読み取れる。

今日、事故の原因を元にして、それに対しての対策を考えました。私は、あらためて、いろんな人たちにせわになっているということを知りました。それから、まじりから大人までかき集りに簡単にできる対策を考えて、自動車会社の人たちや、県庁の人たちやけいさつ官の人たちに行なうたいと思いましたが...

県庁に、たいくとしてお願いしたいことは、たくさんあります。県庁の中心だからだと思います。そのたいくを、県庁に、使ってほしいです。

今日の社会の状況に対して、考えたこと、何でもいいです。それがいいです。今日からは、自転車の人を、たくさん減らすこと、これもいいです。

【図10 児童のふり返り】

高 6 ○提案内容の詳細を考え、提案の準備をする。



【写真6 事故を減らす対策を考えている児童】

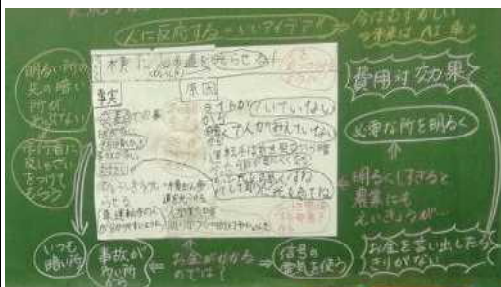
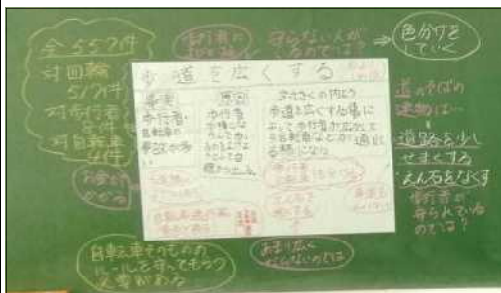
○県庁・警察・自動車会社ごとに何を提案するか話し合い、提案したい対策の数に応じて小グループを作った。
○小グループごとに「現状と原因、自分たちが考えた対策」の関連を意識して提案用紙を作成するよう促した(写真6)。

高 7 ○県庁の方へ提案をする。

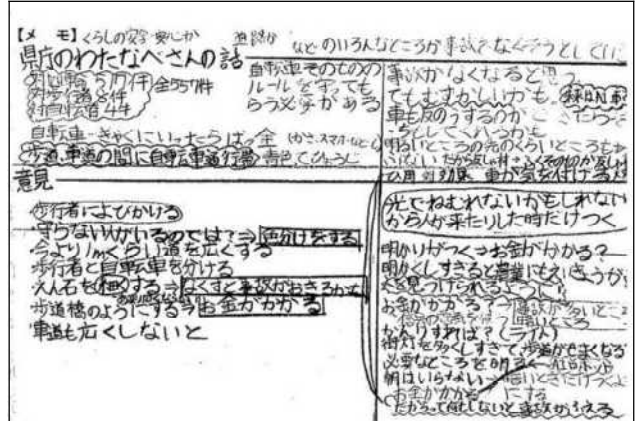
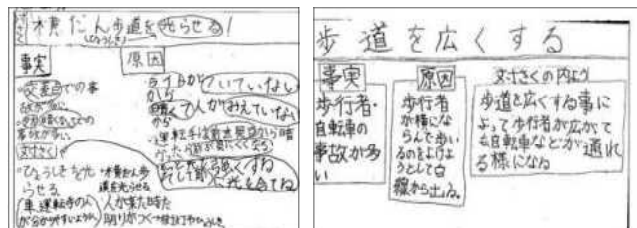


【写真7 県庁の方への提案の様子】

○県庁「くらしの安全安心課」の方を LP として招き、自分たちが考えた対策について提案し、議論をおこなった。
○提案グループ以外の児童も提案の内容を理解し、議論の場において「対策をより効果的にするための意見」を発言できるように、事前にワークシートを配布し、自分の考えを記入して議論に臨むようにした(図11)。



【写真8 提案内容と議論の記録】



【図11 児童のワークシート】

行っていたことが伝わる発言も見られた。
また、この発言を受け、自動車会社の方からも「誰でも利用できる車作りを目指している」という自動車会社としての理念を話していただいた。

※事故を減らすシステムだけではなく、「人」に目を向けて考えていく必要性を感じたことが、ふり返り（図14）から読み取れる。
※授業終了後に、自分の考えたことを直接訴えにいく児童の姿も見られた。



【写真10 直接訴える児童】

今日のじゅ業を通して、体調
体質のことを考えました。そ
ういう方がいるから、どなた
でも安心して乗れる車がいい
と思いました。いくら安全で
もどなたでも乗れなかったら
意味がないので安全・安心な
車がいいと思いました。

【図14 児童のふり返り】

7 本時の指導（9 / 12）

(1) 目標

交通事故対策について、LPと議論する活動を通して、複数の立場から考えたり、現在の対策と比較・関連付けしたりしながら、より効果的なものにしていくことができるようにする。

(2) 評価基準

イ LPとの議論において、複数の立場を考えて発言したり、現在の対策と比較・関連付けしたりしながら、自分の考えを説明している。 【思考・判断・表現】

ウ 自分たちが考えた対策をより効果的なものにするために、意欲的に議論に参加している。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動と児童の反応（「」）	形態	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 本時のめあてをつかむ。 (5分)	斉	1 佐賀県警の方を紹介し、本時では制度面を中心に議論することを確認する。
佐賀県警の人と話合って、自分たちの提案をより効果的なものにしよう。		
2 グループごとの提案について説明し、LPとの議論を通して提案内容を検討する。(30分) ①【事故が多い所に警察が立つ・パトロールを増やす】の提案と質疑応答	斉	2-(1) 理由を明らかにするために、「実現可能性」「効果」「費用」などの社会的事象の見方や考え方を働かせながら検討するよう促す。 ◆ 社会的事象の見方や考え方を働かせて考えているか。 (ワークシートの記述、発言)【思考・判断・表現】 A Bに加え、代案を示している。 B 社会的事象の見方や考え方を働かせ、批判的に考えている。 →どうすればより効果的な対策になるか代案を考えるよう促す。 C 社会的事象の見方や考え方にふれていない。 →ワークシートや、黒板に書かれている見方や考え方をもとに提案内容について考えるように促す。

②【金曜日の夕方を歩行者・自転車用道路にする】の提案と質疑応答

交通事故は金曜日と、夕方の4～5時台が最も多く、次に8～9時台となっています。つまり、通勤通学の時間帯です。なので、中高生の自転車が安全に通れるように、その時間は学校近くの道路に車が入って来れないようにしたいと思います。

3 LPの話を書く。(5分)

4 本時の振り返りをする。(5分)

警察の人と話して、簡単にできると思っていただけ、実際に対策として行うことの難しさが分かりました。しかし、交通事故を減らすために、これからもいろいろなアイデアを出しあうことは大事だと思います。

2-(2) 提案グループの児童とLPだけの議論にならないように、フロアの児童にも意見を求める。

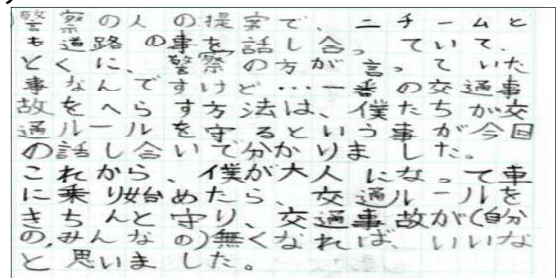
2-(3) 多角的に考えるために、車の運転手、自転車の中高生、お年寄り、小学生など複数の立場を意識して発言するように促す。

3 児童の励みとなるように、学習活動への称賛と、交通安全に関する指導をしよう。

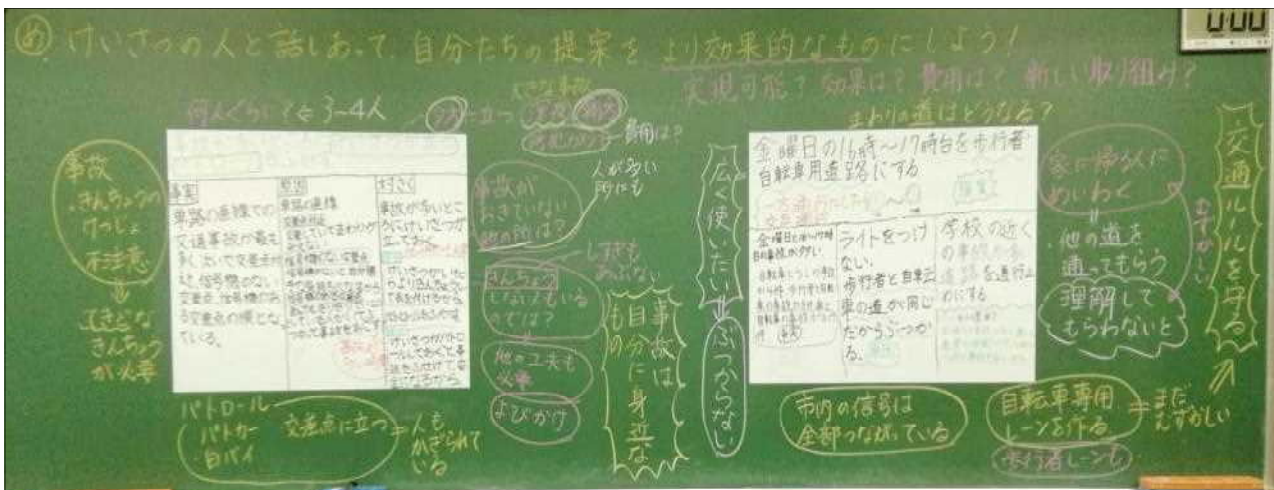
4-(1) 議論を通して感じたことについて見つめることができるように、議論前後の自分の考えの変化を中心に振り返りを書くよう促す。

4-(2) 自他の感じ方の違いや共通点を知り、考えを深めるために、友達の発表を聞く時間を設け、共有を図る。

(4) 本時の板書・児童のワークシート・振り返り



提案内容に関して、自分の考え、友達の考え、警察の考えを整理しながら記入し、自分の考えを整理している様子が見られた。振り返りでは、様々な対策の必要性を感じつつも、一人一人の意識の向上が重要であることを感じるなど、新たな考えをもったことが分かる。



8 授業の実際と考察

(1) 実践の概要

社会的問題をいかにして自分事として捉えさせるのかということ課題の1つとして、本実践を行った。「佐賀県は10万人あたりの人身事故発生が5年連続で全国ワースト1位」という事実から、事故を減らさなければいけないという思いをもたせ、そのための対策について、友達やLP（ラーニングパートナー）との対話を通して考えを深めさせるように学習を展開した。

(2) 主体的な学びの場面

本時は、単元における3回目の議論の場面であった。1回目は県庁の方に、2回目は自動車会社の方に、そして本時は警察の方に対して担当グループから提案を行った。いずれの議論も、提案内容を記載したワークシートを事前に児童に配布し、「より効果的にするにはどうしたらよいか」を考えた上で授業に臨ませた。児童は、他グループの提案を批判的に見て、現在の取り組みと比較したり、資料や家の人から聞いた話と関連付けたりしながら、自分の考えをもって議論に参加することができた。

(3) 対話的な学び

議論においては、全ての児童が発言することはできなかったものの、発言が途絶えること無く考えを述べる姿が見られた。また、教室に掲示している資料や家族から聞いた話を根拠として自分の考えを述べようとする姿も見られた(図15)。発言できなかった児童も、自分の考えと比べながら議論を聞いたり、資料等をもとに自分の考えをもてていたことが、振り返りや事後の学びの姿を見るシートから見取ることができた。



図15 資料を使って発表する児童

(4) 深い学び

警察への提案内容をより効果的にしようと考えながら議論が続く中で、自他の考えを比較したり関連づけたりさせる姿が見られた。また、実現可能性や費用対効果などの見方から発言する姿も見られた。議論を通して友達の考えやLPの話聞くことにより、自分と違う考えの良さに気付いたり、改めて自分の考えの良さを再確認したりするなど、自分の考えに固執するのではなく、それまでの考えを広げたり深めたりすることができた。

(5) 全体考察

単元を通して、児童が「どうにかして交通事故を減らさなければ」「家の人にも注意するように呼びかけなければ」というノート記述がとても多かった。このことから、児童は社会的問題を自分事として捉えながら学習に臨んだと言える。また、本実践ではLPに提案し、対話を通して提案内容をより効果的にしていく活動を取り入れたが、そのことが批判的な思考を行わせることにつながり、深い学びへと向かうことができたのではないかと考えられる。